

ゆりかご 2024.11.1 園だより

3期(10~12月)のねらい

手を使ってつくりだす活動を中心に
園生活を豊かにしよう

新型コロナウイルス感染症の流行により、昨年、4年ぶりの開催となった「公開保育」

公開保育は、「日常の保育を公開、見学すると共に、保育者間の交流を行い、保育の内容や方法、環境設定を学び合う機会とすること」を目的として年に一度

行われています。市内の保育園・認定こども園が30園、それぞれの園の状況に合わせて、受け入れ人数や保育活動を決め参加者を迎えます。たくさんのお客様を迎えるとなると、緊張するし掃除も念入りしなければならぬし…。と、できれば避けたいのですが、北区の場合は順番が決まっています。断ることもできず、今年も公開保育を受けました。ゆりかごは申し込み開始後すぐに10名の定員が埋まったので、なぜゆりかごを希望するのか？理由を知りたくなりました。

他園の見学を通して保育環境の工夫や保育者の子どもへのかかわりなどを知り、自身の保育を振り返る機会となるし、公開園は公開保育の実施にあたり、自園の保育を見直す機会になる。参加者から評価してもらうことで職員の自信になると言われています。

当日は園長や保育士が10名、園に集まりました。

参加者のほとんどは新しい園舎で保育をしているらしく、「私が子どもの頃に通った園のようで懐かしい」「年季のスタ遊具ですね」という感想と共に、

- ・乳児からあそびの中で体幹を鍛える保育をしている。
- ・子どもの主体性を育てる保育をしている。
- ・保育士が必要以上にことばがけをせず、ゆったり子どもとかがわっている。
- ・保護者と一体となって行事をすすめるなど、保護者も交えて子どもの成長を支えている。といった感想が述べられました。

北区で顔見知りの園長先生は、ゆりかごを選んだ理由を、「園長が熱く保育を語るのどんな保育をしているのか見たかった」とおっしゃっていて、お恥ずかしい限りです。

確かに保育のことと打るとつい熱がスリますが、ゆりかごは園長だけでなく職員たちも「保育を熱く語る」そんな保育園です。他園の方の感想に自分たちのやってきた保育に自信をもち、今後も研鑽を積みながら保育をしていきたいと思いました。

